

ふるさとの思い出「祭礼」

八王子市 石川安雄（西町出身）

祭礼が近づくと部落の公会堂で大人達が灯籠（子供が手軽に持てる大きさの四角いもの。棒が付いている）張りを始める。

部落の氏神様は近くの山、大正公園の頂上付近の社殿に納められている。社殿までは最初30〜40段の急な石段。その後5〜6段の石段が幾度もあつて長い坂道。両脇にはつつじの木がいっぱい植えられており、初夏の頃、赤・オレンジ・白の見事な花を咲かせる。子供らはその花ビラをそーっと採ってツーンと伸びたつつじの枝を折り、何枚も差す。差し重ね終えたものを厚く抜き取って食べた。甘酸っぱかった。

つつじの花が満開の頃、部落の田んぼでは田植えが始まっていた。田あかきの後の田んぼにソロバンの玉の様な道具でゴロゴロ押しして5〜6本の線を付けて、それを目安に苗を手で植える。子供らは畦から苗束を適当な間隔で田んぼに投込む。大人達はその束を拾って植える。

さあ、コビル（小昼と書くか？一昼前の小休憩）にシヤショと田の持主が声を掛ける。60年前田植機など勿論なく、親戚や隣近所でスケ（互に手伝って）て田植をした。



コビルはお茶と、みそやきなこのおにぎり。おさえ（お菜一おかず）はちよつと酸っぱくなつた野沢菜漬やたくあんのお漬を油で炒めたものだった。子供らには、きなこのおにぎりは本当においしいおやつでした。

やがて実りの秋が近づくと9月、祭礼の当日となる。大人達は笛や太鼓で祭を盛上げ、子供達は灯籠を手に持って公会堂から大正公園の社殿へと行列する。距離にして千m位だったと思うがその間で何回も灯籠のローソクを取替えるのだ。何故か、子供達が5cm位の新しいローソクを2cm位燃えたところで火を消して「もう燃えつきたので新しいローソクを下さい」と部落の祭役にせがんでローソクをもらおう。燃え残ったローソクは後日、溶かして固めてスキ一のロー（ワックス）にするのだ。

祭役は「又かよ、そんなに早く燃えるはずはないぞ」などと言いながら、又新しいローソクを渡す。子供らのやり口を解っているのだ。

暗闇の遠くから観れば、点々とゆっくり、ゆれる灯籠の火。現在の社殿はその山の中腹に移築されている。

長く真つすぐな柱に長いのぼり幡。

「今年も豊作をありがとう！」の祭礼。今も行われているのだろうか。

（写真は9月に行われている西町の祭礼）



木島平村民会館解体工事開始

今から、約40年前の昭和48年、公民館活動及び住民のコミュニティの拠点として整備した木島平村民会館の取り壊し工事が始まりました。これは、老朽化によるもので、耐震性を考慮して取り壊しをするものです。

開館当時は、芸能発表や公営結婚式など、会員のみなさんの中でも利用された方はいらっしやるのではないのでしょうか。



取り壊される村民会館



ホールでの公営結婚式



芸能発表会

村民会館の取り壊しは、7月から始まり10月には終了予定です。

会報原稿募集中!

郵送・FAX・メールいずれかの方法でお願いします。「村の思い出」「身近な出来事」など、木島平村に関係することであれば何でもOKです。
【送付先】〒389の2392 木島平村役場内 ふるさと応援団事務局
fax 0269の82の4121 ✉ kicho@kijimadaira.jp ま

調布でのイベントをご紹介します

9月から10月にかけて、調布市内で木島平村のイベントが行われますので、ご紹介いたします。

① 深大寺稲刈りの儀

9月26日(土) 午後1時～

場所：深大寺

早乙女が深大寺の客殿から仲見世を通り、本堂まで行列行進、稲刈りの儀、護摩祈願などを行います。昔ながらの衣装に身を包んだ早乙女の稲刈りをご覧いただけます。また、鬼島太鼓の演奏も予定されています。

② 木島平いくなか交流フェスタニ調布

10月3日(土) 午後2時～

場所：調布市グリーンホール

木島平村が世界に誇る和太鼓グループ「鬼島太鼓」の演奏。世界的な音楽家を数多く輩出している「桐朋学園大学」の演奏。両団体のセッション、最後にはお楽しみ抽選会と盛りだくさんです。

詳細は別紙チラシをご覧ください。

